

連載

た まご ばんざい!! たまご博物館通信

⑦食に対する消費者の高い関心

「たまご博物館」館長 高木伸一

こんにちは。「たまご博物館」の高木です。今回は、近年の「食」に対する消費者の高い関心」について、お話ししたいと思います。

鳥インフルエンザ、BS E、偽装事件を通じて

皆さんご存知の通り、ここ数年、「食」に関する消費者の関心が非常に高まっています。

「食」に関する消費者の考え方について、現在のようになると考えていた人は少なかったの

ではないでしょうか。

食への関心上の原因として挙げられるのは、近年の「健康志向」に加え、数々発生した「食」に関する事件、出来事」が大きく関係していると思います。

中でも、大きなものとして挙げられるのは、平成十二年六月に大手乳製品メーカーで発生した集団食中毒事件ではないかと思えます。このメーカーでは、工場の操業が全面的に停止する事態になり、スーパーや小売店などからグループ商品が全品撤

去されるなど、「食品のブランド」というイメージも急激に低下し、

グループ企業の解体、再編を余儀なくされるほどの重大な結果となってしまうました。

また、平成十三年九月にはわが国で初めての牛海綿状脳症（BSE）の牛が確認され、牛肉消費の低迷といった状況が生じるとともに、畜産農家を含めた食肉業界に混乱が広がっていきま

した。このような事件は、乳製品、食肉業界に止まらず、食品業界

全体に大きな影響を与えました。その後も、牛肉や生鮮食品などでの「産地偽装事件」などがマスコミにより大きく報道され、食品メーカー、取扱業者などにおける管理の重要性がクローズアップされたのです。

たまごに関しては、残念ながら平成十六年一月に起きた「日付偽装事件」（半年前の冷蔵卵をテールエッグとして出荷）、国内で実に七九年ぶりに発生した「鳥インフルエンザ」が挙げられ、業界内に衝撃が走ったのは記憶に新しいところです。

BSEや鳥インフルエンザの発生以来、消費者の家畜の病気に対する関心はマスコミの大きな報道により高まりました。「食」の安全、安心が消費者にとっていかに重要な事項であるかが、改めて浮き彫りにされたのです。



▲トレーサビリティによって、消費者はこのパック卵の情報を得ると同時に、安心も得ているのかもしれない（写真はイメージです）。

鶏卵におけるトレーサビリティとは

最近では、たまごパックのラベルに記載されたコードをホームページから入力すると生産情報が閲覧できる「トレーサビリティ」を導入している企業などが出てきました。農水省や日卵協でも「鶏卵トレーサビリティの導入」に向けたガイドライン作りや実証テストを行っています。

「トレーサビリティ」とは、「トレース」(trace)＝「追跡する」から、「自社」

「能力」の二つの語を合成した造語で、生産過程の履歴情報などをさかのぼって追跡できるようにするシステム全体を指します。

養鶏場やGPセンター、液卵工場、加工場などでは従来から十分な品質検査が行われていますが、トレーサビリティ導入により、さらに品質保証システムとしての位置づけに向上できるものと思います。

しかし、品質保証システムやトレーサビリティシステムは、生産者側自体が構築するもの

すから、「自社」にとって都合の悪いデータを公表しないのでは」との声もあります。これを防止し、機能性のあるシステムとするためには、十分な社内規律の

確立を行ったり、例えば社外の監査機関による監査機能を設けるなどの考慮が必要ではないかと考えています。

養鶏場によっては直売店を設置し、消費者に直接販売しているところが多くあります。直売店を利用している方に聞いてみますと「直接、生産者から購入できることで安心できる」とみんな言われます。これは、対面販売のできる自然の（昔からの）「品質保証+トレーサビリティ」システムだと思います。

やはり、消費者と生産者がお互いに信じ合える関係作りが大切なのではないのでしょうか。

誤解を与えないために もさまざまな広報活動を

昨年の冬期からの高卵価はTV、新聞などで大きく取り上げられました。「たまごは生きた鶏が産むものであり、工業製品のようにすぐに増産ができない」

ということを消費者も再認識したことでしよう。

近年の「食のグローバル化」により今後、中国卵の輸入増加の可能性があると考えられています。

国内のたまごの高自給率は是非、死守していきたいですね。食料自給率の低下が叫ばれる中、私たちはもう一度、「食」について見詰め直す必要があると思います。

このように消費者が高い関心を持ち、毎日接し、口にする食品ですから、鶏やたまごを取り扱う側も再認識し、また、消費者に誤解を与えない（鳥インフルエンザ、コレステロールなど）ためにも、様々な面で広報活動に努めることが重要であると思います。

◇ ◆ ◇
次回は、身近な食材「たまごのアップル」についてお話ししたいと思います。

